

ラ・カニャーダ・フリントリッジ市との姉妹都市交流に関する 基本的な考え方（案）

1 策定の趣旨

三鷹市では、公益財団法人三鷹国際交流協会（以下「MISHOP」という。）を中心に市民が主体となり、国や地域を特定しない幅広い国際交流を推進しています。

こうした中、令和 7 年 5 月にアメリカ合衆国のラ・カニャーダ・フリントリッジ市（以下「LCF市」という。）から、姉妹都市交流の提案を受けました。本市では、戦後 80 年という節目を経て生まれたこのつながりを、平和の尊さを次世代へ継承していく大切な機会と捉え、これまでの国際化施策のさらなる発展に向けた新たな一歩として、海外都市との交流を進めることとしました。また、両市のつながりを一時的なものにとどめず、将来にわたり持続可能な友好関係へと発展させるため、姉妹都市協定の締結による長期的なパートナーシップの構築を目指します。

ここに、協定の締結及び当面の交流の指針として、LCF市との姉妹都市交流に関する基本的な考え方を示します。

2 交流の意義と目的

(1) 相互理解と平和への寄与

戦後 80 年の節目を迎える中、LCF市との交流を通じて、市民同士がそれぞれの文化や歴史、平和の価値観を尊重しながら理解を深め、友情と信頼関係を育みます。また、デスカンソ・ガーデンズに残る日系人の歴史など、両市に共通する歴史的背景に学びながら、平和の尊さを次世代へ継承し、市民一人ひとりが平和について考え行動する契機を創出します。交流を通じた相互理解の積み重ねにより、平和な社会の実現に寄与します。

(2) 共通の地域資源を生かした学びと子ども・若者の育成

両市には、自然、文化、科学技術など多くの共通点があります。井の頭恩賜公園とデスカンソ・ガーデンズ、国立天文台と JPL など、それぞれの特色を生かした交流と学びの機会を創出します。特に子ども・若者にとっては、異なる文化や価値観に触れながら国際的な視野を広げ、多様性を理解し、主体的に行動できる力を育む機会となります。教育、科学、文化など幅広い分野での学びを通じて、将来の地域社会を担う人材の育成につなげます。

(3) 市民主体の交流の発展と多文化共生の推進

MISHOP は、令和 11（2029）年に設立 40 周年を迎えます。LCF市との交流は、MISHOP を中心に培ってきた市民主体の国際交流をさらに発展させるものです。市民、学校、関係団体など多様な主体が交流に参加することで、新たなつながりを生み出し、地域に根差した持続可能な交流基盤を構築します。また、

異なる文化や習慣への理解を深め、多様な価値観を尊重する意識を醸成することとで、多文化共生の地域づくりを推進します。

3 交流の基本理念

両市は、相互の歴史、文化及び平和の価値観を尊重し、対等なパートナーシップのもとで交流を進めます。また、行政が機会や環境の創出を担い、市民、学校、研究機関、関係団体等の主体的な参加を通じて、世代を超えて友情と信頼を育みながら、将来にわたり継続する交流関係を築いていきます。

4 交流事業の方向性

オンラインと対面での交流を組み合わせながら、幅広い世代の市民、教育機関及び関係団体の参画を得て国際交流を進め、グローバル化に対応する人財の育成と交流の裾野の拡大につなげていきます。なお、これらは現時点での方向性であり、令和9年度予算編成のプロセスを通して、実施の枠組みを定めていきます。

(1) 中学校交流プログラム

両市の中学生を対象に、1週間程度の交流プログラムを実施し、学校や家庭での生活、文化などを体験しながら相互理解を深めます。両市が隔年で交互に訪問することとし、令和9年度は、LCF市からの訪問団の受入れから開始します。令和9年度の受入れは、宿泊施設での滞在とホームビジットを組み合わせることを基本にします。また、ホームステイが可能な家庭の要件や受入体制を整理し、将来的にはホームステイの手法についても検討を進めます。

(2) JPL 国際スペース・アカデミー・プログラム

姉妹都市提携自治体に在住する学生とされていましたが、現地視察において、在学の学生も参加が可能であることが確認されました。既にスペインの姉妹都市との間で学校単位による実施実績があることから、まずは、学校単位での参加を基本とします。令和8年度に実施されるプログラム内容を確認するとともに、市内高校の意向を踏まえてモデル校を決定し、実施体制及び役割分担を明確にした上で、令和9年度からの試行実施を目指します。その効果や課題を検証しながら、令和10年度以降の市内展開を検討します。

(3) オンラインを活用した日常的な交流

時差の課題を踏まえながら、中学校の授業やMISHOP ラウンジ等を活用したオンライン交流を実施します。互いの歴史、文化、地理、学校生活などを英語で紹介し合い、意見交換を行うなど、継続的な相互理解につなげます。姉妹都市提携後の訪問交流を補完するとともに、より多くの児童・生徒や市民が、国際交流に参加できる仕組みとして位置付けます。

(4) 費用負担

費用負担については、渡航費や滞在費を訪問側が負担し、現地プログラムや

移動等に要する経費を受入側が負担することを基本とします。具体的な事業規模や財政負担については、交流内容や参加人数を踏まえながら、今後協議します。

5 推進体制

姉妹都市交流は、行政が交流の大枠を定めながら、市民同士が交流を積み重ねながら発展させていくものです。LCF市の窓口は姉妹都市協会で、既にボランティアによる委員会が設置され、準備が進められています。

三鷹市においても、MISHOP と三鷹市が共同で交流推進プロジェクト準備会を設置します。MISHOP を中心に培われてきた市民主体の国際交流の実績と知見、市の行政としての総合調整機能、それぞれの強みを生かしながら、多くの市民の意見を聴き、共感を得ながら、交流のアイデアや推進体制についての検討を進めていきます。

6 当面の進め方

姉妹都市提携と、その先にある未来への懸け橋となる交流に向けて、市民の皆様や関係機関と連携しながら、取組を進めていきます。

(1) 市民理解の促進

広報みたか、市ホームページ、平和展、各種イベント等を活用し、LCF市の概要、三鷹市との共通点、交流の意義等を市民に分かりやすく発信します。また、基本的な考え方に対する意見募集や交流推進プロジェクト準備会でのワークショップなどにより、交流のアイデアを把握し、今後の交流事業の具体化に生かしていきます。

(2) 提携前からの交流の開始

提携前であっても、公立小中学校でのオンライン交流や、MISHOP を中心とした市民オンライン交流など、実施可能な小規模な交流から開始することを検討し、交流機運の醸成を図っていきます。

(3) スケジュール

令和8年9月	総務委員会（基本的な考え方（案）） 意見募集
令和8年10月	交流推進プロジェクト準備会設置 市長オンライン会議
令和8年11月	総務委員会（進捗状況）
令和8年12月	協定締結の議案提出、補正予算
令和9年1～2月	協定締結、令和9年度予算案

(4) 意見募集

「ラ・カニヤード・フリントリッジ市との姉妹都市交流に関する基本的な考

え方」(案)及び同市との交流事業に関するアイデアや提案について、市民の皆様から意見を伺います。募集期間は令和8年9月18日(金)から10月9日(金)までとし、寄せられた意見については、今後の交流事業の検討に当たり参考とします。

7 効果の検証と見直し

長期的かつ安定的な交流関係を構築し、市民との協働で国際交流を継続していくためには、効果の検証と見直しを行う必要があります。交流による効果を指標化するなど、検証の仕組みを構築することで、市民の皆様の意見を反映しながら、必要に応じて事業内容や実施方法の見直しを行います。

参考資料

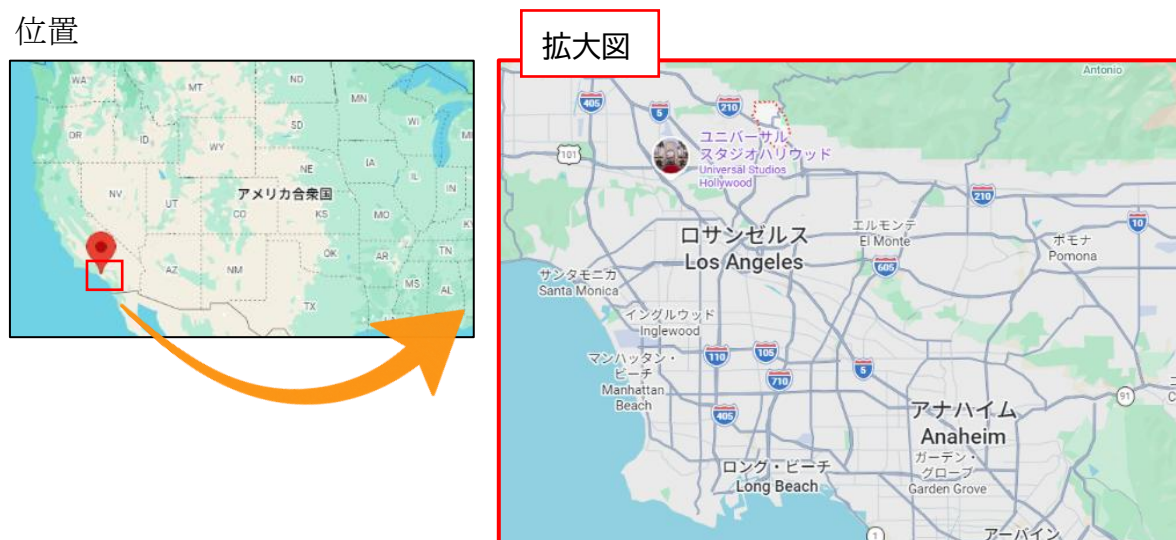
1 LCF市の概要

ロサンゼルス中心部から北東へ約 20km（車で約 20 分）のサンガブリエル山脈の麓に広がっています。市名は「丘の間の谷」の意味で、豊かな自然、学術・研究機関、落ち着いた街並みが調和した治安の良い住宅都市です。

(1) 基礎データ

人口	19,621 人（2024 年）
面積	22.38km ²
市制施行	1976 年 11 月 30 日
行政区分	カリフォルニア州 ロサンゼルス郡
時差	マイナス 16 時間
アクセス	成田からロサンゼルスまでの直行便（約 11 時間）
姉妹都市	スペインのビジャヌエバ・デ・ラ・カニャーダ市

(2) 位置



(3) 主な施設

ア NASA のジェット推進研究所（Jet Propulsion Laboratory/JPL）

NASA の主要研究機関で、無人探査機の研究開発や運用を担う世界有数の宇宙科学拠点です。1936 年に設立され、約 5,000 人の研究者・技術者が所属しています。ボイジャー探査機や火星探査計画など数多くの宇宙ミッションに携わり、宇宙探査や地球観測を支えています。施設内には探査機の模型展示、探査機を組み立てるクリーンルーム、運行指令を行うコントロールルームなどがあり、最先端の宇宙開発を体感できます。また、高校生向けの「スペース・アカデミー・プログラム※」を実施するなど、次世代育成にも力を入れ

ており、地域住民にとって誇りある施設として親しまれています。

※9月から11月までの約10週間にわたり実施されるオンライン中心の教育プログラムです。宇宙探査に関する技術や課題解決手法、起業家精神を学ぶ実践的な内容で、参加者は4人1組のチームを編成し、仮想企業の一員として宇宙関連の課題解決や事業提案に取り組みます。なお、本プログラムへの参加は、LCF市と姉妹都市提携を締結している自治体に限られます。

イ デスカンソ・ガーデンズ

約61ヘクタールの植物園・自然公園で、「デスカンソ（休息）」の名のとおり、市民に親しまれる憩いの空間です。園内には北米最大級のツバキ・コレクションをはじめ、バラ園、日本庭園、古代の森など多彩なエリアが整備され、豊かな自然と歴史を楽しむことができます。日本庭園は、第二次世界大戦中の真珠湾攻撃後、日米関係の悪化により日系人が手放したツバキの苗木が植えられたことに由来しており、日米の歴史的なつながりを今に伝えています。歴史と自然が調和した「生きた展示館」として、地域住民や来訪者に癒しと学びの場を提供しています。

ウ フレンドシップ・トレイル

人と人、地域と地域のつながりを象徴する交流の場です。全長約37kmに及ぶトレイルは、公道や公共の小道、一部私有地、橋などをつなぎ合わせて形成されており、乗馬愛好家やハイカー、ランナー、犬の散歩を楽しむ市民など、多くの人に利用されています。トレイルの入口付近には、姉妹都市であるスペイン王国ビジャヌエバ・デ・ラ・カニャーダ市との友情を記念した銘板が設置されています。自然豊かな景観を楽しみながら交流の歴史に触れることができる、市民に親しまれた地域の名所となっています。

エ ラ・カニャーダ高校

ラ・カニャーダ・フリントリッジ統一学区にある唯一の公立中高一貫校で、7年生から12年生までが学んでいます。カリフォルニア州内でも高い学力水準を誇り、科学・技術・工学・数学（STEM）分野を重視した教育を特色としています。カリフォルニア工科大学との連携による授業や部活動、ロボティクスラボを活用した探究学習など、先進的な理数教育が充実している一方、音楽、美術、演劇などの芸術教育にも力を入れています。また、保護者や地域住民による学校支援が盛んで、三鷹市のコミュニティ・スクールとの親和性も高い学校です。

2 これまでの経過

(1) 姉妹都市提携の申出と交流に向けた検討

令和7（2025）年5月、LCF市長から三鷹市長宛てに姉妹都市提携の提案に関する書簡が送付されたことを契機に、両市の交流に向けた検討を開始しました。同年7月には同市姉妹都市協会から市の概要資料が送付され、8月には

「まずは交流から開始し、2028 年ロサンゼルスオリンピックまでに一定の方向性を示したい」との考えを伝えました。

(2) L C F 市長の訪問と協議の開始

令和 7 年 10 月には L C F 市長が私的に三鷹市を訪問し、その後も両市で交流の継続について意見交換を行いました。令和 8 年度には現地視察に係る予算を計上し、4 月及び 7 月にはオンライン会議を開催して交流の方向性や今後の進め方について協議しました。

(3) 現地視察による相互理解の深化

令和 8 年 7 月、副市長及び教育長が L C F 市を訪問し、JPL、ラ・カニャーダ高校、デスカンソ・ガーデンズ、フレンドシップ・トレイル等を視察するとともに、市長、副市長、市議会議員、教育長、姉妹都市協会関係者等と意見交換を行いました。両市は、平和、教育、青少年育成を基盤として交流を進めることを確認し、市民主体による持続的な交流を通じて将来にわたり友好関係を発展させていくことで認識が一致しました。

3 L C F 市が三鷹市を提携候補とした理由

新たな姉妹都市を模索するため、世界各地の都市について調査・研究を進め、約 1 年間にわたり日本に焦点を当てて検討を重ねた結果、以下の共通性を踏まえ、三鷹市が最も有力な提携候補であるとの判断に至った。

(1) 教育と地域コミュニティ

L C F 市は、地域コミュニティ活動が活発な住宅都市である。また、教育環境が高く評価されており、学校教育への地域の関わりや市民主体の活動が盛んな点も共通している。

(2) 宇宙・科学分野

J P L は、地域に根付いた市民の誇りとなっている施設で、宇宙・科学が教育の特色ともなっている。三鷹市には、国立天文台が立地しており、宇宙や科学への関心という共通基盤があり、親和性が高い。

(3) 自然・文化・アニメーション

デスカンソ・ガーデンズの日本庭園をはじめ、日本文化への関心が高く、国際的に有名なアニメーターの拠点となっている。三鷹市にも、井の頭恩賜公園や三鷹の森ジブリ美術館などの自然・文化資源があり、両市には共通点がある。

4 海外都市との姉妹都市提携について

姉妹都市提携は、地方自治法上、明文で議決事項とされていませんが、三鷹市では、矢吹町、たつの市との提携に当たって、議会の議決を得ています。単なる交流にとどまらず、中長期的に継続する公的な関係となること、また、交流事業の実施に当たって一定の財政負担が伴い、予算の裏付けが必要となるため、L

C F 市との姉妹都市提携に当たっても同様に考えています。

まずは、英語圏で、小中学生を含む幅広い世代が比較的参加しやすい L C F 市との交流を積み重ねていきますが、今後の海外との姉妹都市提携に当たっては、次の基準を踏まえながら、申出に対して個別に検討します。

(1) 発端・関係性

交流の積み重ねや都市とのつながりなどが契機となることもあるが、相手側からの継続的な提携の意向も契機となります。いわゆる「縁」も勘案しながら、相互の信頼関係を基礎とした交流が期待できるかなどを総合的に判断します。

(2) 都市としての親和性

相手都市との間に一定の共通性や親和性があるか、また、相互理解や継続的な交流に発展し得る基盤があるかを判断します。

(3) 政策的意義

平和、青少年交流、多文化共生、市民レベルでの交流の拡大など、市の施策に合致しているかどうかを判断します。

(4) 交流実現性

役割分担や費用負担、実施時期、参加対象などの基本的な条件についての相互理解が前提となります。継続的に実施できる枠組みであるか、市民の参画が見込まれ、交流の広がりが期待できるかという観点から判断します。